



庄原を味わい、めざせ日本一!

庄原市カーブ応援隊 カーブ日南キャンプ訪問・2/3 No.6

庄原市カーブ応援隊の一行が、広島東洋カーブのキャンプ地・宮崎県日南市の大福球場を訪問しました。応援隊を代表して庄原市観光協会の土井幹雄会長が「庄原市の特産品を食べて、ことしこそ日本一に!」と応援隊の熱い想いを緒方孝市監督に伝え、庄原米や比婆牛などの特産品を贈呈しました。

緒方監督は「ことしも厳しい戦いになると思いますが、庄原市の力をもらいたい。応援よろしくお祈りします」とあいさつをしました。

リーグ4連覇と35年ぶりの日本一が掛かる今シーズン。ぜひ皆さんも応援隊に参加し、大きな声援を届けましょう!



▲土井会長から緒方監督に庄原の特産品を手渡した

人工芝コートで熱戦

雪合戦ひろしま 2019in 高野・2/2-3 No.5

第22回広島県雪合戦大会「雪合戦ひろしま2019in 高野」が高野スポーツ広場で開催され、県内外から79チーム、選手や観客などを合わせて約3,200人が来場しました。

今年は積雪量が少ない上に2日目には雨が降り、グラウンドコンディションは最悪の状態でしたが、コートの上では水しぶきが上がるほど激しい攻防が繰り広げられました。2日目に開催された第2回しょうばら鍋-1グランプリ in 雪合戦には11団体が出店し、自慢の鍋の味を競いました。温かい鍋料理を目当てに開始前から長い列ができる盛況ぶり、約800人が各団体の創作鍋を堪能していました。



▲シェルター越しの攻防

寒い冬に暖かな明かり

冬の俳句灯笼まつり・2/16-24 No.2

比和温泉施設あけぼの荘で、冬の俳句灯笼まつりが開催されました。

あけぼの荘の「うたあそび投稿コーナー」に投稿された俳句や、比和自治振興区発行の「ヒワちゃん俳句工房作品集『ひよめき』」に掲載した冬の俳句から数点選んで作られた「俳句灯笼」をはじめ、比和保育所・放課後子供教室に通う子どもたちが作った「貼り絵の灯笼」が飾られました。

その他にも竹ランタンや、ペットボトルのキャップを使って作られた雪だるま型のキャンドルなども飾られ、厳しい寒さの中に、暖かい明かりがともりました。



▲夕暮れに浮かぶ灯笼や竹ランタン

中学生が地域課題解決を提案

総領の明日を考える会・1/11 No.1

総領自治振興センターで、「総領の明日を考える会」の会議が行われ、総領中の生徒が人口減少などの地域課題解決の提案発表と同会メンバーとの意見交換を行いました。同会は、平成28年に総領の地域課題とその対応策について協議・検討するため、行政・自治振興区・企業などの地域の代表が集まって発足したものです。

生徒は、地域の観光を活性化するため、田総川や道の駅リストア・ステーションなどの地域資源を活用した取り組みについて提案しました。

同会メンバーは「アイデアが斬新でとても良かった」「観光客の誘致だけでなく、若年層の人口流出についても考えてもらいたい」などと感想を述べました。



▲中学生が地域の人に向けて提案発表を行った

華麗なシュプールを描く

第54回庄原市東城地区スキー大会・2/9 No.8

ひろしま県民の森スキー場で、庄原市体育協会東城支部が主催するスキー大会が開催されました。この大会は、これまで数多くのジュニア選手が全国大会へ巣立った歴史ある大会です。

大会では、個々のレベルに合わせたスキー講習に7人が参加し、競技には保育園児から60代までの36人が男女、年齢別の12部門に出場しタイムを競いました。当日は積雪にも恵まれ最高のコンディションで、参加者はスキーを楽しんでいました。

男子一般3部(46~59才)に出場した、田口宏さんは「今回もスキーが大好きな息子と競技に参加した。次回も一緒に参加したいので、この大会が続いてほしい」と話していました。



▲ゴールを目指して直滑降

国際相互理解を深める

日本語スピーチコンテスト&交流会・2/10 No.7

口和自治振興センターで、しょうばら国際交流協会主催の第17回日本語学習者による「日本語スピーチコンテスト&交流会」が開催されました。

当日は、約150人が参加し、日本語学習者15人のスピーチを聞きました。発表者は、民族衣装や着物を着て、ユーモアを交えながら発表し、会場からは、笑い声がこぼれていました。

スピーチ終了後、口和中の生徒による「よさこいソーラン」、「けん玉パフォーマンス」や、インドネシア人の皆さんによる「合唱」のアトラクションが行われ、会場には大きな手拍子が沸き起こりました。

交流会では、参加者が自慢の料理を持ち寄り、食事と会話を楽しんでいました。



▲15人が壇上でスピーチした

文化財を災害から守る

日吉神社(山内町)ほか 防火訓練・2/3 No.4

1月26日の「第65回文化財防火デー」に合わせて、1月16日から2月3日にかけて市内各地で防火訓練が行われました。文化財防火デーは、昭和24年に国宝「法隆寺金堂」が炎上し壁画が焼損したことを機に定められ、この日を中心に文化財を災害から守るため、全国的に文化財防火運動が展開されています。

本年度は国の重要文化財である「赤糸威大鏡」を所蔵する山内町の日吉神社をはじめ、市内5カ所で実施されました。日吉神社では、焚き火が周辺の山林に燃え移り、文化財の保管施設に延焼の恐れがあるという状況を想定して実施され、通報から文化財の搬出、消防署と消防団が連携しての延焼防止の放水訓練が行われました。



▲放水訓練の様子

食を通して地域と交流

美古登小学校の児童がそば打ち体験・2/4 No.3

西城町の八鳥集会所で、美古登小の3、4年生9人がそば打ち体験をしました。今回の体験は自分たちが栽培したそばを食べることで、勤労意欲や食への関心を高めるとともに、地域の方と交流することで、地域への愛着を深めることを目的としています。

児童は、八鳥ふれあいサロンの参加者や地域の方に教わりながら、熱心にそばを打ちました。事前に学習と練習を行ったこともあり、見事なそばが出来上がりました。昼食では、地域の女性部の方々が作った、おにぎり、てんぷら、漬物とともに出来たてのそばを食べました。

児童は、「こねる作業が難しかったけど、練習より上手にできた。できたそばもおいしかった」と話していました。



▲協力してそばをこねる児童